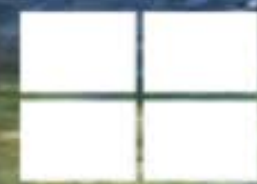


地域における I C T 人材 働きかたの未来

株式会社 ダンクソフト
星野 晃一郎





 **Tokushima**
Working styles

受賞歴

- 2007年 Microsoft Partner of the Year Smart Business Award
- 2010年 東京ニュービジネス協議会 エコ大賞
- 2010年～ 中央区ワーク・ライフ・バランス推進企業
- 2010年 経済産業省 中小企業 I T 経営力大賞 認定企業
- 2011年～ 東京ワークライフバランス認定企業
- 2013年 徳島県 e-とくしま表彰 (地域情報化表彰)
- 2013年 Microsoft Partner of the Year Smart Business Award
- 2014年 中小企業 I T 経営力大賞 審査委員会奨励賞
- 2014年 経済産業省 ダイバーシティー 100 選
- 2015年 第15回 テレワーク推進賞 優秀賞
- 2016年 総務省 テレワーク先駆者 100 選
- 2016年 厚生労働省 輝くテレワーク 特別奨励賞



スマートオフィス 全国に広がるダンクソフトのスマートオフィス

マレーシア クアラルンプールにも



山梨ワインツーリズム事例

iBeaconを利用した
ワイナリーの紹介と
来場者動態共有システム

<https://www.youtube.com/watch?v=7aVEYdQlo3I>

ワインツーリズム IT化の経緯

2014年 神山町 視察者情報 共有システム

2015年 神山のガイドさん iBeacon 展示情報発信システムを横展開！

山梨ワインツーリズム iBeacon 来場者動態共有システム

http://blogs.itmedia.co.jp/freiheitjob/2016/06/kintone_4.html

ワインツーリズムやまなし

一般社団法人ワインツーリズムは、2013年に理事3名で設立し、それぞれ仕事をもっている持つ地域協力者300人を超えた集まりです。設立以前より地場産業を核として地域のチカラを結集し、地域の活性化に結びつく活動にするために「ワインツーリズムやまなし」という、ワイナリーをまわるツアーとして活動を2008年から行っています。

地域の活性化に結び付ける活動とは、ぶどう農家、・ワイナリー、・飲食店、・商店、・朝市、・NPO、・行政など、地域に今ある「チカラ」をつなぎ合わせ、**地方に「お金の循環」を生むためのマーケット＝プラットフォームの創生を目的としたイベント**です。

イベント運営をICT IOTで どうやって黒字化？

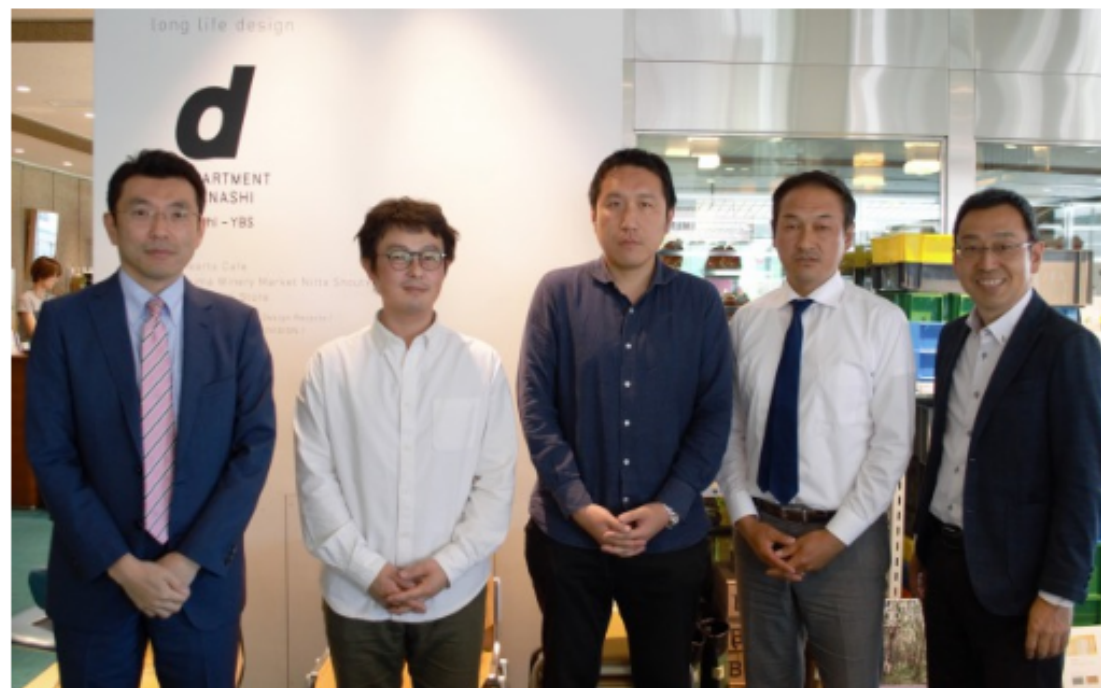
1. 離れた場所を超える SKYPE kintone

2. お客様の属性を知るためのアンケート

○

ICTを活用し、イベント運営を赤字から黒字への転換に成功された、お客様事例をご紹介します。

【一般社団法人ワインツーリズム様】



左から

井上税務会計事務所 税理士 井上文人様

LOCALSTANDARD株式会社 代表取締役社長 大木貴之様

株式会社タビゼン 代表取締役 須藤治憲様

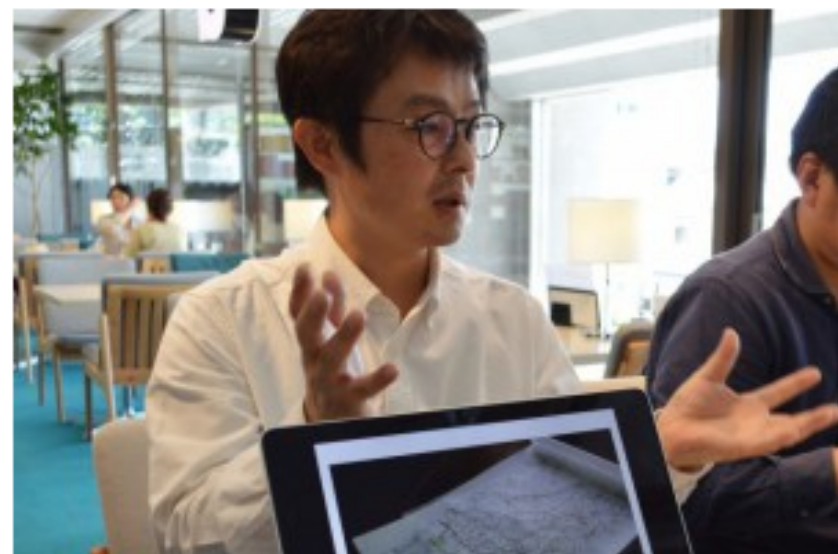
株式会社S.T.COMPANY 取締役 鶴田真也様

株式会社ダンクソフト 中村龍太

■ ワインツーリズムやまなしとは

「ワインツーリズムやまなし」は、一般社団法人ワインツーリズム様が2008年より企画運営している、山梨県内のワイナリーを巡り歩くイベントです。参加者には事前に「当日ワイナリーの資料」や「簡易マップ&バス時刻表」「バスチケット」などが届き、自身で巡る予定を決めていただきます。まるで旅を計画するような仕組みが、ワインツーリズムの楽しみの一つです。当日は自身で決めた好きな駅からスタートし、エリア内を巡回するバスを乗り継ぎながら目的のワイナリーを巡っていただきます。各ワイナリーではテイスティング(無料、有料)や見学会が開催されており、各々に時を過ごし、ぶどうとワインの産地を楽しむのがワインツーリズムやまなしです。

■ はじまりは山梨県産ワインの知名度アップから



大木様:16年前にオープンしたワインや地ビールを提供する飲食店(FourHearts Cafe)を成功させるため、当時山梨県民さえ飲んでいなかった山梨のワインを盛り上げていく活動をずっと続けていました。限られたエリアでワインフェスを何度も開催していたのですが、他のエリアからの開催希望が多く寄せられるようになり、「エリアとエリアを巡って楽しむイベント」としてワインツーリズムやまなしが生まれました。



大木様:エリアとエリアを繋ぐ人として、顔が広く人望のある鶴田さんの力を借りました。

街全体を繋ぐための循環バス運行などに関しては、旅行代理店を経営している須藤さんの協力をもらいました。2008年からイベントを開催し集客はうまくいったものの、お客様の情報や満足度を集計、検証することなどには手が回らない状況でした。また財政面では正直採算の合わない部分が多く苦勞していました。

大木様:まず行ったことは、来場のお客様の情報を集めるためのアンケートです。アンケートの収集はサイボウズの"フォームクリエイター"を使い、お客様がインターネットから入力する仕組みを作りました。集計は自動でkintoneに蓄積し、手間をかけず精度の高いデータを集めることができました。

また同じ要領で巡るルート of 事前アンケートを行い、そこから予測した内容を「混雑予報」としてSNSで発信しました。開示できる情報を増やせたことで、お客様にルートの見直しを考えてもらうなど、多少対策を考えてきてもらえるようになったと思います。

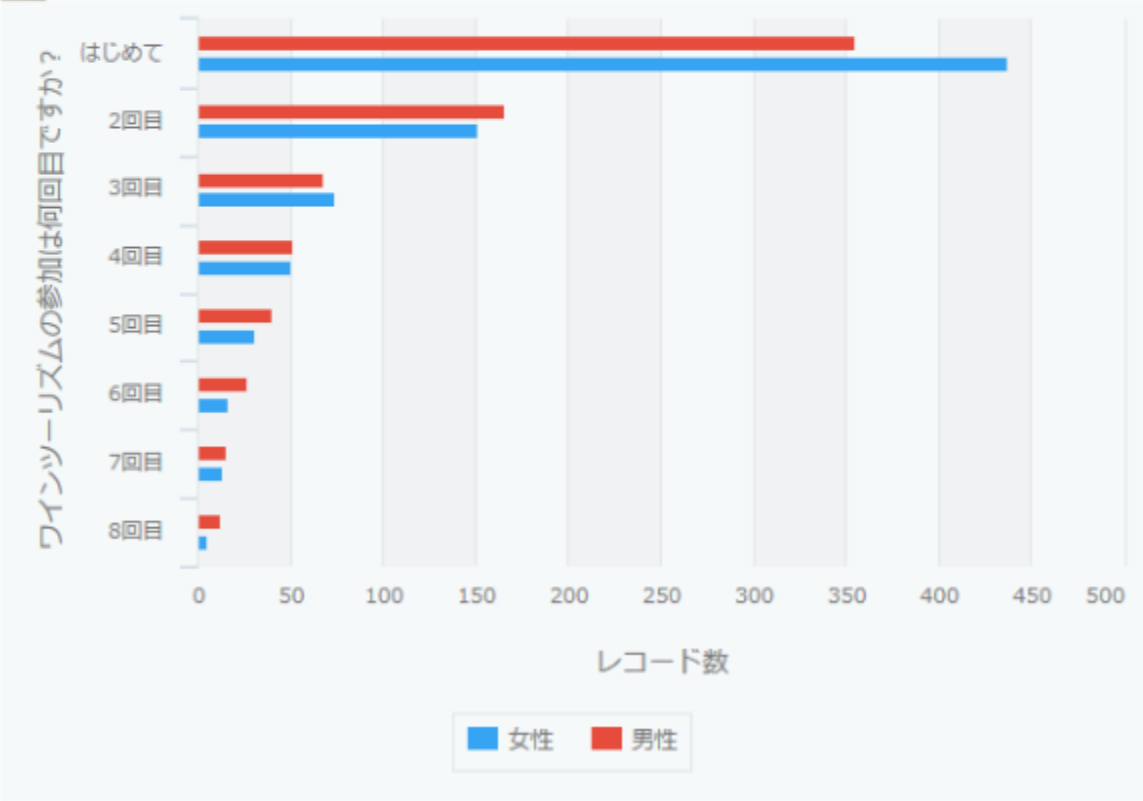
kintoneを活用しはじめてから、今まで手が回らなかったデータ収集や検証が容易にできるようになりました。またICTが苦手なメンバーでも集計したデータを書き出すことは簡単なので、必要に応じて使用しています。離れたメンバーとの情報交換もkintoneで行うことができ、やりとりの効率が良くなりました。



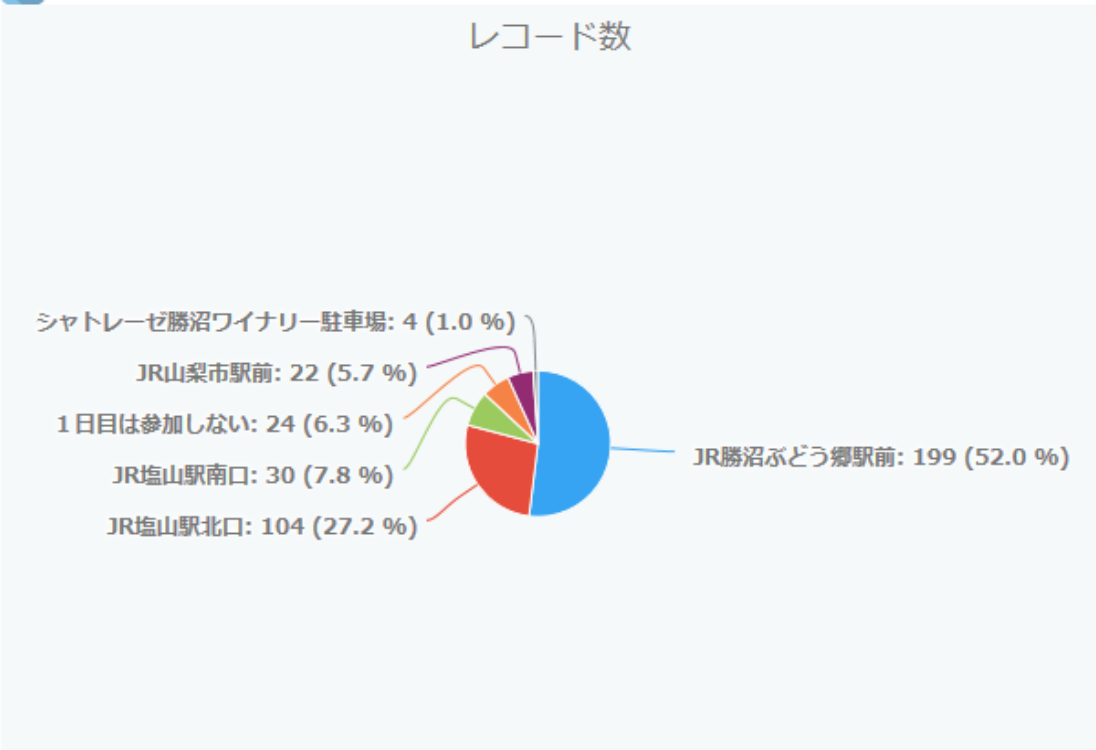
○kintoneを導入してみて変わったこと

最後に皆さんに、kintoneを導入してみてどう変わったか、聞いてみました。
大木さんは、「とても説明しやすくなった。参加者数、売り上げ、実績を分かりやすくまとめることができ、説得力が生まれた」とおっしゃっていました。

参加回数別人数
アンケート_ワインツーリズムやまなし2015・秋



当日出発地
アンケート_WT2015_出発と訪問地





開発担当者:本橋大輔(株式会社ダクソフト 神山ブリッジ キャプテン)

「winetourism(ワインツーリズム)」はiBeacon(アイビーコン)※2を活用したモバイル用アプリです。iBeaconは一定時間ごとに半径数メートルの範囲にむけて電波を発信する小型の端末で、スマホにインストールされた対応アプリが電波を検出すると、その場所ならではの情報をアプリが自動で利用者に通知します。iBeaconはとても小さく、電池式のため置く場所に困りません。しかし防水にはなっていないため、屋外への設置には工夫が必要です。アプリは出来るだけシンプルな設計を心がけ、後々追加の機能を付けるのも容易にしました。表示できる情報はURLを持ったページなら、WordpressやFacebook、Twitterなど何でも対応しています。

※2 iBeacon(アイビーコン)は屋内測位システムにおけるアップルの商標。

大木様:イベントでは参加のワイナリー60社にiBeaconを設置し、来場者の方への情報提供のツールとして使用しました。各ワイナリーのおすすめワインや収穫の風景、その日だけの催し物などをリアルタイムにお手元へお届けしました。



これがビーコン！

株式会社ダクソフトの開発したスマートフォン用アプリで、無料でインストールができます。



winetourism 4+

株式会社ダクソフト>

+ 開く

詳細

レビュー

関連



事例から学ぶ 特定非営利活動法人グリーンバレー様



特定非営利活動法人グリーンバレー様
利用用途：神山町視察団体の申込管理

例3：Beacon端末を活用した観光ガイドアプリの開発（株式会社ダンクソフト） （平成26年度民間活力による集落再生モデル創出事業交付金による取組事例）

Bluetooth Low Energyという技術を使った小型Beacon端末を介して、電源を使えない場所でも観光客に適切な情報を通知できる広範囲なエリアを対象とした観光ガイドアプリを開発。アプリをインストールしたスマートフォンを持って、神山町にある「大栗山アートワーク」を訪れると、野外に展示されているアート作品の近くに置いたBeacon端末から、作品・アーティストの情報や設置当時の写真をプッシュ通知で教えてくれる。情報受信者は美術館の音声ガイドのように、スマートフォンを持って移動するだけで、その場所に関する情報をリアルタイムに受け取ることができる。

提供する情報はウェブブラウザだけで簡単に管理することができ、地元NPO法人が中心となって地域のイベント情報等のタイムリーな発信を可能にしている。さらに、有人ガイド付きのツアー希望者からの申込受付や相談対応等も同じシステムで一体管理することができるようになっている。





もう一つ！ このアプリには機能があります！
それは参加者の訪問ルートを確認できる機能です。

こちらは、アプリがポップアップした時に、任意の特定されたIDを記録していきます。

local time	u_id from parameter	path
2015/11/07 11:31:32	FEFF4058432097301D589B4D6B02	四恩醸造-2
2015/11/07 13:17:18	FEFF4058432097301D589B4D6B02	樺山洋酒工業株式会社-2
2015/11/07 13:31:24	FEFF4058432097301D589B4D6B02	樺山洋酒工業株式会社-2
2015/11/07 14:41:37	FEFF4058432097301D589B4D6B02	奥野田葡萄酒株式会社-2
2015/11/07 15:30:21	FEFF4058432097301D589B4D6B02	シャトー・ジュン株式会社-2
2015/11/07 16:56:58	FEFF4058432097301D589B4D6B02	麻屋葡萄酒株式会社-2
2015/11/08 10:51:57	FEFF4058432097301D589B4D6B02	木下商事株式会社
2015/11/08 12:06:04	FEFF4058432097301D589B4D6B02	甲府ワインポート
2015/11/08 14:20:20	FEFF4058432097301D589B4D6B02	東洋洋酒株式会社（とうしんようしゅ）-2
2015/11/08 15:11:06	FEFF4058432097301D589B4D6B02	イケダワイナリー株式会社-2
2015/11/08 16:48:34	FEFF4058432097301D589B4D6B02	岩崎醸造株式会社-2
2015/11/08 16:51:42	FEFF4058432097301D589B4D6B02	イケダワイナリー株式会社-2
2015/11/08 17:31:41	FEFF4058432097301D589B4D6B02	旭洋酒
2015/11/08 17:31:42	FEFF4058432097301D589B4D6B02	ペイザナ

個人が特定されないIDでどのツーリストがどのワイナリーを回ったのかを把握でき、翌年の計画に生かされるというわけです。

今はまだデータ収集のみ行っていますが、今後はこのデータを解析し、来場者に人気のルートを割り出しバスの運行状態をスムーズにするための判断材料として使いたいと思っています。ゆくゆくはバス停にもiBeaconを設置して、バスの待ち時間にも情報が取得できる仕組みも作りたいです。

kintoneやアプリの上手な活用はもとより、活用を生み出すチームワークとアイデアが成功の鍵のようです。今後は後世まで受け継がれる、運営サイドも参加するお客様も満足できるイベントを作り続けていきたいとメンバーの皆さんはおっしゃっていました。

最近の地域活性化での学び

ICTの有効活用 ＋ 脱構造 ＋ Heuristic!

1. 徳島県 42社のSO 神山町16社 5年間での劇的な変化の要因は？
 - (NPOが中心、企業、地元自治体、県庁などのコラボレーション)
2. 山梨ワインツーリズム
 - 離れた場所にいる 企業家 観光業、ワイナリー、会計士、ICT企業(徳島)とのコラボレーション
3. 墨田ストリートジャズフェスティバル
 - 20万人超を3000名のボランティアがもてなす無料イベント
4. 豊洲パエリア
 - 3年目で5万人を超えた国際コンクール予選 & ご当地パエリア選手権

ボランティアはたった100名 <下関パエリアも2年目で3日イベントに>

地方こそがITフロンティア

小学校でプログラミング授業 @神山町

新聞記事のヘッダー部分。左から「新聞記事のヘッダー部分」の文字、中央の「5月」の文字、右側の「5月」の文字。

小学校のプログラミング学習

広野小(神山)で実証事業

あすーT企業など

インターネットなど情報通信技術の進展に伴い、2020年度から小学校で必修化が検討されている「プログラミング学習」のモデル授業が8日、神山町の広野小で行われる。総務省が本年度、実証事業として全国11校で実施し、四国では広野小が唯一選ばれた。

た。同小の授業は神山町にサテライトオフィス(SO)を置くIT企業のダンクソフトが担当。ダンク社はプログラミングの指導に当たるメンター(指導者)の育成も進める考えで、「プログラミング学習先進地」を目指す。

広野小では、ダンク社とシニアで神山町のSOに勤務する本橋大輔さん(38)が、郷土芸能の「阿波木偶TO(テント)」が8日の「箱まわし」を題材に開発した。3Dプリンターで作った木偶型ロボット(高さ約10センチ)をプログラミング言語

の「スクラッチ」で動かすという内容。児童には、プログラムの指示でロボットが笑ったり、腕を動かしたりすることを学ぶことで、プログラミングの楽しさに触れてもらう。

来年1月15日には親子向けのプログラミング教室も開催。プログラミング教育のメンター16人程度の育成にも取り組む。

11月22日にはテントの竹林代表(46)が広野小を訪れ、メンター候補になっている本橋さんら3人と教諭らに、プログラミング学習の現状を説明。英国や北欧に比べ、日本は遅れを取っていることなどを解説した。

竹林代表は「プログラミングを教えられる人材は都市に集中しているが、神山はSOの人材がいるので有利。日本全体の手本になるカリキュラムができるはず」と話す。本橋さんは「子どもの創造性や好奇心を引き出し、コンピューターと友達になる感覚を育てたい」と意気込んでいる。

ロボット動作の入力指導

プログラミング教室に向け、内容を話し合う本橋さん(右端)らと広野小

(土井良典)



若者UP 卒業生インタビュー

高卒後10年間の
フリーター生活を経て
念願のプログラマへ。

株式会社ダンクソフト
柳沼義智さん(32歳)

前半

高校卒業後、約10年間、プールの監視員のアルバイトを続けてきたという柳沼さん。

30歳を前に「このままじゃいけない」とハローワークで職を探しますが、面接にも進めないということが続きます。

そんなとき出会ったのが、ちょうふ若者サポートステーションでの若者UPプログラムでした。

プログラミングに興味があった柳沼さんは、MIC（Microsoft Innovation Center）のプログラミング研修に参加。

なんと研修時のインターン先である株式会社ダンクソフトに正社員として入社することができました。

入社して1年が経つ柳沼さんに、フリーター時代のこと、就職に対する思い、そしてこれからのことを聞きました。



企業×NPO法人×行政のコラボレーションによって 地方創生がはじまる……………

地方こそ、世界とつながることでおもしろく変化していく

「若者UP サポートの想い」……自分自身が高校生くらいから音楽に入れ込み 大学入試や卒業後の就職もそっちのけで作曲などに没頭したにも関わらず28歳までちゃんと就職できずにいて、たまたま縁があって25歳からプログラミングやシステムデザイン能力を独学で身につけて今の会社に28歳で入社。30歳で社長に就いたという経緯があり、当時お世話になった方々には何も返せなかった歯がゆさが 若者UPを通じて社会に何かしら恩返しできるのではと考えたところにあります。

「別海留学の意図」……若者が特に男性が社会に出るためには、試練が必要で そのためには知らない場所への旅が有用なことは物語や神話でも多く語られています。もっとも代表的な例は「STARWARS」。知らない場所で様々な試練を経て成長した若者が帰還する物語を若者UPの代表に体験してもらい、その物語をトレースすることで次々と行動してみる若者を増やしたいということでした。実際に北海道まで自力で行ってもらおうことも考えましたがさすがにそれは遠いので今回は断念しましたが。

「別海留学の成果と期待」……若者が廃校になった学校で学んでいる姿を地元の方が見ることで、地元に希望が生まれ新たな活力が生まれてきたように思います。若者たちも色々な新しい働き方や酪農などの古くからある仕事がドローンなどで変化していく現場も予感できたり あるいは日本一のパエリアを食して世界とのつながりも意識できたのではないかと思います。インターネットが世界中に繋がっていることで 考え方1つで自分のいる場所が世界（地球）の中心になる時代です。地方こそ世界と繋がることで将来性、可能性が広がって面白く変化していく時代に若者がチャレンジしていく流れが次々と起こっていくことを期待しています。

株式会社ダンクソフト 代表取締役 C.E.O
新しい働き方インテグレーター 星野 晃一郎さん

Business



▲写真上) ダンクソフト社における
テレワークの様子について説明する星野さん。

▲ (写真下)
中央左は星野さん、右は田子さん。ご自身の
経験をもとに、若者たちへアドバイス。

さまざまな働き方を体験する人々に
直接話を聞くという貴重な体験。

別海町留学参加者たちは、テレワークセン
ターで、センターの広場で、牧場で、サテ
ライトイベントで、その人々の働き方を自由に
デザインしている方々になくさん会いました。
そして、そのなかから、「働く」ことを考えて
いく際になりました。



参加した若者の言葉

インターネットを利用して自由に生きていくことができる！

早くからテレワークという働き方を自社に導入してくれた企業家
の方たちから、導入にまつ経緯や活用方法の話を聞いた。

参加者は「テレワークという時間と場所に囚われない働き
方」と聞くと、便利な働き方があるんだね、としか思ってい
ませんでした。

しかし、お話を聞いて感じたことは、そんな小規模なこと
ではなく、「ネットを利用して自由に生きていく。テレワーク
を通して、自分たちが生きている世界が中心になる」という
ことです。テレワークという働き方に対する理解が深まり
ました。



参加した若者の言葉

限界集落、地域活性化にも効果があるのでは？

テレワークは技能知識のある方だけ、企業の上の立場の方だけしか利用で
きないような特別なモノなんだと感じていましたが、実際は色々な方が利
用可能であり、そんなに難しい働き方じゃないと感じました。職業問わず利
用できる。この働き方がどんどん広まっていけばいいと思いました。サテ
ライトオフィスにしても同じような効果でしたが実際はそうでもなく、都市だ
けではなく限界集落への設置や、地域活性化にも繋がると感じました。

東京と結ぶ
「つなぐイベント」に
参加しました！



別海町 留学

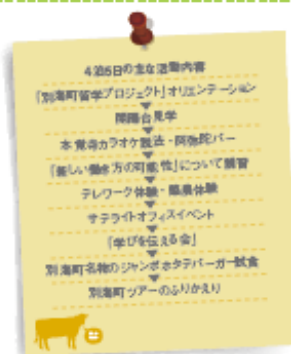
4月
5月

経路省「ふるさとテレワーク推進のための
地域実証事業」が行われている
北海道野付郡別海町。
地域のなかで働く、中小企業で働く、
テレワークという新しい方法で働く……など、
いろいろな働き方を見学しに、
全国各地の若者UPプロジェクト参加者が
別海町を訪れました。

参加した若者の言葉

働き始めた流れの中に私はいる！

別海町テレワークプロジェクトについて、行政、
商工会、IT会社の視点に立ったリアルな話を聞く
ことができました。このプロジェクトがいかに大き
な可能性を持ったものであり、また実際にもう働
き始めている。そしてその流れの中に今自分は身
を置いているのだと改めて思いました。



副業ではなく「複業」という新しい働き方もできる

参加した若者の言葉

その人に合った、多種多様な働き方をしたいな！

テレワークという働き方ですが、個人的に、楽しく続けたい。現状があるもの
だと思っていました。ですが、実際にテレワークをしている人達を見ると、家で家
庭の看護をしながらであったり、サテライトオフィス地点で和気あいあいとして
いたり、果てにはキャンピングカーで各地を移動しながら仕事をしている人まで
居て、多種多様な、それぞれに合った働き方をされていて、とても自由で、良い
働き方だなと感服も感じ、こういう働き方したいと思えるようになりました。

多様な働き方を学び 次のステップへのエネルギーに

今回は宮城県石巻市から別海町留学に1名の若者
に参加していただきました。これまで石巻という狭い世界
で生きてきた彼が、北海道の大自然の中、離れたことの
ない農業という仕事や、地方で元気に活躍する大人た
ち、地方と東京を繋ぐ「つなぐ」テクノロジー、そし
て多様なワークスタイルに触れることで、将来を考える大
きな転機になったのではないかと思います。

「この留学で、新しい働き方と、昔からある働き方両方に触
れることができ、将来の選択肢を広げることができた」

力強く語る彼は、現在アルバイトしながら国家試験
「ITパスポート」の取得に向けて勉強を始めています。

限られた時間の中で生きる若者にとって、将来を選ぶ
選択肢はまだ狭いです。しかしそこに大人がひと
手間加えることで、彼らの視野は大きく広がります。この
取り組みが全国の道路に似る若者と地域創生をつなぐ
突破口になっていければと思います。

特定非営利活動法人 switch 常務理事
今野 純太郎さん

参加した若者の言葉

ITを利用した酪農家に憧れる！

酪農家の奥崎さんの話を聞いたとき、憧れを抱き
ました。酪農にIT関係を取り入れて牛の売買をさ
せている。働くのはほんの数時間だけという、酪農つ
ま大変なイメージがありましたが、自由に羽を広げ
て暮らしている様子、ゆっくり時間を過ごしながら働
くというスタイルがとても気に入りました。

